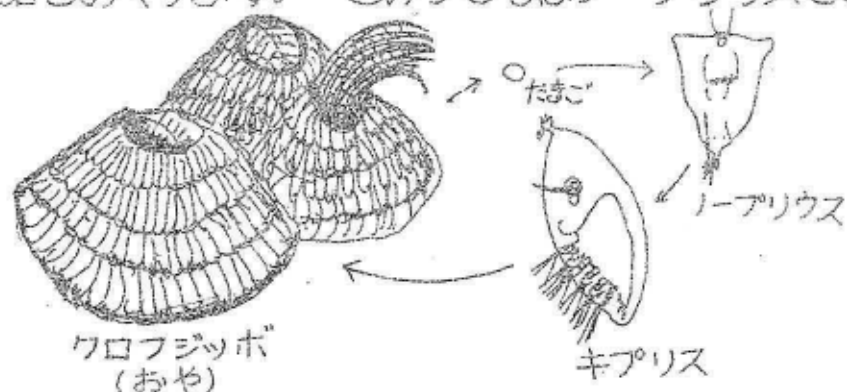


フジツボ

ジージーとセミが鷹き、入道雲も出る頃になると、海水浴や磯釣り等で海へ行く機会も多くなります。海には、陸地でみることのできないさまざまないきものがすんでいます。フジツボもそのひとつでしょう。フジツボはみなさんよくごぞんじの日本一高い山、^{ふじさん}富士山のかたちにした、長さが2~3センチの、かたい貝のようなからをもっていますが、じつは貝のなかまではありません。それではいったいなんのなかまなのでしょう。貝のからだは、ふしがなく、やわらかいきんにくでできています。いっぽうフジツボは12本もの、ふしでできた、ちょうどアサガオのうるのうのような形をした足をもっていて、これでアランワトンなどのエサを食べます。じつは、フジツボは、貝のなかまでなく、エビやカニのなかまなのです。このことはフジツボの子どもの時のかたちをみるといっそうはっきりします。フジツボの子どもは海水の中をただようアランワトン生活をおくります。この子どもはノープリウスとよばれ



ちょうど、ケンミジンコの子どもとそっくりで、エビやカニの子どもともたいへんよくにている。フジツボのノープリウスは、やがて、形をかえてキアリスというやっ大きな子どもになり海のそこへおりていきます。キアリスは海のそこをさがんにおよぎまわり、じぶんとおなじしゅるいのフジツボがたくさんいるところをさがします。そのようばしょをさがしあてると、もう一度形をかえておやのフジツボとおなじ形になります。さがしあてられないものは、ほかの動物に食べられたりしてしんでしまうのでしょうか。このようにおなじしゅるいどうし集まるせいしつがあるのでフジツボはみしめきあってくらしています。

これはなぜでしょうか。じつは、子どもをふやすためののです。フジツボはいわなどにぴったりくっついて全く動くことができませんので、おとなになってじぶんたちのこどもをうむとき、ながまが近くにいないとこまるのです。フジツボは、どれもオスでありメスであるというくちようをもっています。オスのふぶんでできたせいしを長いくで、同じ種類の別のフジツボのからだにいれて子どもをつくるのです。かわったくらしをしている動物も、じぶんたちの子どもをふやすためのたくみなくふうをしているものですね。

(N.N.)



富山市科学文化センター

富山市西中野町3丁目1番19号 (〒930-11)

電話 富山(0764) 91-2123(代表)

昭和59年7月1日発行